

DNS Summer Day 2022 Hybrid

TACHIBANA toshio
DNSOPS.JP/GREE, Inc.

ENOG75 Meeting
2022/9/2

DNS Summer Day 2022

開催趣旨

DNSはインターネットにおける重要な基盤技術の一つです。

そのため、DNSの安定運用がインターネット安定運用にそのまま直結します。

DNSはグローバルCDNのシグナリングや、証明書の健全性の検証に必要な情報 DNSはインターネットにおける重要な基盤技術の一つです。

そのため、DNSの安定運用がインターネット安定運用にそのまま直結します。

DNSはグローバルCDNのシグナリングや、証明書の健全性の検証に必要な情報

の提示に用いられたりするようになり、情報通信インフラの安全性・健全性

を支える重要な機能を実現するための役割を担われる一方DNSに干渉する

ことにより様々な目的を実現しようという動きも起きています。

グローバルにサービスを提供する事業者によるパブリックDNSサービスが、

権威側、リゾルバ側を問わずブラックボックス的に使われる場面も当たり前

の状況となりつつあります。このようにDNSは多くの重要な役割を持つ、

代替となるものがないインフラサービスとなっています。

一方で、DNSの運用については権威側にもリゾルバ側にも十分な関心が

払われておらず、必要な予算や人材などもきちんと割り当てられている

とは言えない状況が相変わらず継続しています。

このようなDNSの状況に鑑みて、DNSOPS.JPでは今年も引き続き

DNS Summer Day を開催することといたしました。

現在、現地とオンラインでのハイブリット開催を予定しております。

※新型コロナ感染拡大の影響により、オンラインのみになる可能性もございます。

DNS Summer Day 2022

名称

- DNS Summer Day 2022

主催

- 日本DNSオペレーターズグループ (DNSOPS.JP)

日時

- 2022年6月24日 (金) 10:00-18:00

会場

- 現地(アーバンネット神田カンファレンス) + オンライン (Zoom Webinar) 開催 (ハイブリット)

協賛(申し込み順)

- [株式会社XACK](#)
- [株式会社日本レジストリサービス\(JPRS\)](#)
- [SCSK株式会社](#)
- [株式会社インターネットイニシアティブ\(IIJ\)](#)
- [アカマイ・テクノロジーズ合同会社](#)
- [PIPELINE株式会社](#)

メディアスポンサー

- [INTERNET Watch](#)

参加費

- 無料

プログラム

時間	タイトル	発表者	所属	資料
10:00-10:10	開会宣言	石田 慶樹	日本DNSオペレーターズグループ	
10:10-10:30	フルサービスリゾルバの反復問い合わせセキュリティの可視化	小坂 良太	NTTコミュニケーションズ株式会社	資料
10:30-10:50	DNS セキュリティ機構の普及状況調査：現状と今後の課題	矢島 雅紀	早稲田大学	資料
10:50-11:00	休憩			
11:00-11:30	DNSリバインディングにどう立ち向かうべきか	徳丸 浩	EGセキュアソリューションズ株式会社	資料
11:30-13:00	休憩			
13:00-14:00	権威DNSサービス調査報告～DNSサービスの本質を知ろう～	岡田 雅之	長崎県立大学	資料
		柴尾 直輝	長崎県立大学	
		田中 温子	株式会社ミライコミュニケーションネットワーク	資料
		米谷 嘉朗	日本DNSオペレーターズグループ	資料
14:00-14:10	休憩			
14:10-15:30	スポンサーセッション XACK DNS ChangeLog 2022	黒川 陽平	株式会社XACK	資料
		小澤 遥希	株式会社XACK	
		JPRSの技術情報発信（2021年7月～2022年6月）	株式会社日本レジストリサービス(JPRS)	資料
		サーバ証明書を取得する話？ DNS屋さんの観点から	株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ)	資料
		最近の Akamai Blog から	アカマイ・テクノロジーズ合同会社	資料
		DNSログによるネットワーク異常の検出	PIPELINE株式会社	資料
15:30-16:00	休憩			
16:00-17:00	LTセッション arpaゾーンの謎 ～なぜarpaのサーバーにはjがないのか Akamai AuthServe (nominum) 導入した DNS Abuse/ハンドリングブックの必要性 学生自治会のドメイン名がドロップキャッチされてしまったお話	森下 泰宏	株式会社日本レジストリサービス(JPRS)	資料
		川口 永一郎	ビッグロブ株式会社(BIGLOBE)	資料
		中井尚子	JPCERT/CC	資料
		齋藤 脩倫	長崎県立大学	資料
17:00-17:20	ドメイン名のつかいかた	其田 学	株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ)	資料
17:20-17:50	ドメイン名をまもるということ	木村 泰司	日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)	資料
17:50-18:00	閉会宣言	石田 慶樹	日本DNSオペレーターズグループ	

お話の流れ

前提
準備
本番
知見

2021年との違い

- ハイブリッド開催
 - オンサイト(アーバンネット神田カンファレンス)
 - オンライン(Zoom Webinar)
- オンライン展示は実施しない
 - 協賛団体の資料配布をオンサイトで実施
- 事前参加登録
 - オンサイト参加とオンライン参加を分けて登録

2021年の詳細はENOG71 Meetingでの発表を参照

<https://enog.jp/archives/2514>

2021年と変わらない点

- ・ 協賛特典の提供
 - スポンサーセッションの実施
 - 休憩時間中の広告の表示
- ・ 懇親会
 - 実施しない

準備

- ・ 会場下見
 - 発表・音声環境
 - 開催中の注意点
 - ・ 換気
 - ・ 着席
 - ・ 発言

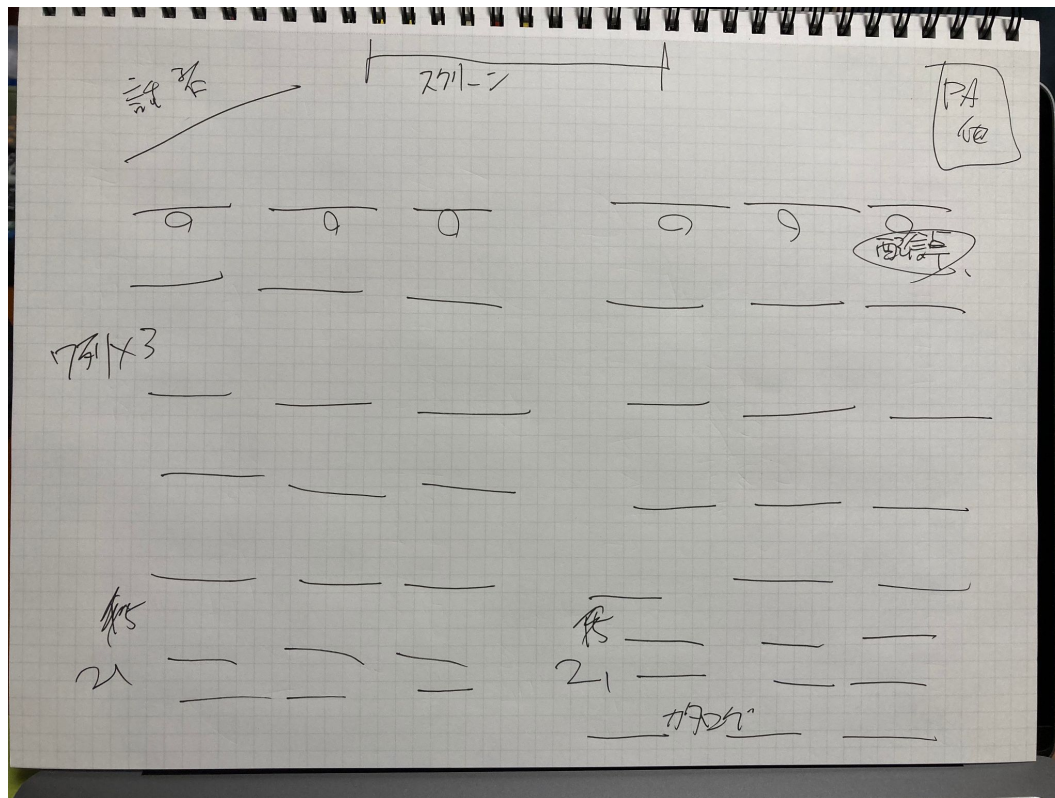
東京都が定義するイベント開催時のガイドラインをベースに会場運営会社からの要求を確認する

現地参加者の定員の決定

下見風景



会場レイアウトイメージ



準備

- ・ 発表リハーサル(リモート発表のみ)
 - 音声、画面共有の確認
 - 当日発表に使うPCおよびネットワークからの参加を要請
 - リハーサル時に操作や進行上の注意点等をお知らせ
 - 発表者はZoom Webinarのパネリスト権限にて参加

全発表者が参加、一人あたり5～10分くらい

準備

- ・ 広告配信
 - 広告動画の素材提供を依頼
 - 1社あたり15秒程度

集まった素材に注意事項等を組み込んで編集し、
ループ再生可能な動画を作成

Zoom Webinar注意点

- ・参加権限の違い
 - 「パネリスト」と「参加者」
 - 「パネリスト」はQ&Aポッドに記入できない
 - ・ 質問したい人は「参加者」で接続する必要がある
 - ・ 発表者も参加者として登録し、複数の権限で接続できるようにする
 - ・ 発表するときだけ「パネリスト」で接続してもらうよう案内

2021年実施時からZoomの仕様は変化しておらず、
本年も注意が必要だった

準備所感

- ・ オンライン会議システム
 - 話者も参加者も慣れてきたので、大きな問題はなし
- ・ オンサイト会場
 - 現地参加申込者が定員を下回ったため、抽選する必要がなかった事にホッとした
 - 音声・映像周りに問題はなく、諸々の準備で対応可能
- ・ 広告配信
 - 例年通り、集まった素材の音声レベルの統一に苦労した
 - ・ 現地での音声レベルの扱いに注意が必要な点に気づいた

当日、苦勞した点

- ・ 発表スライドのオンラインへの配信
 - ビデオスイッチャーを使ってZoom webinarへ配信
 - ・ 画像の解像度が上がりずスライドによっては可読性に難があった
 - Zoom利用上のtipsがあり、終了前のセッションでは改善できた
 - » 「共有」の際に「詳細設定」タブを介して「第2カメラのコンテンツ」を共有する
 - ・ ビデオスイッチャーからの画像が停止した
 - 現地参加者にZoom経由で参加してもらうことで回避
 - 発表形態にかかわらず、パネリスト権限での参加招待を準備しておいた事が役に立った
 - ビデオスイッチャーの電源off/onにより復旧
 - » 愚痴: 準備時、本番と同じ設営状態で2時間動かし続けても止まらなかったのになあ(苦笑)

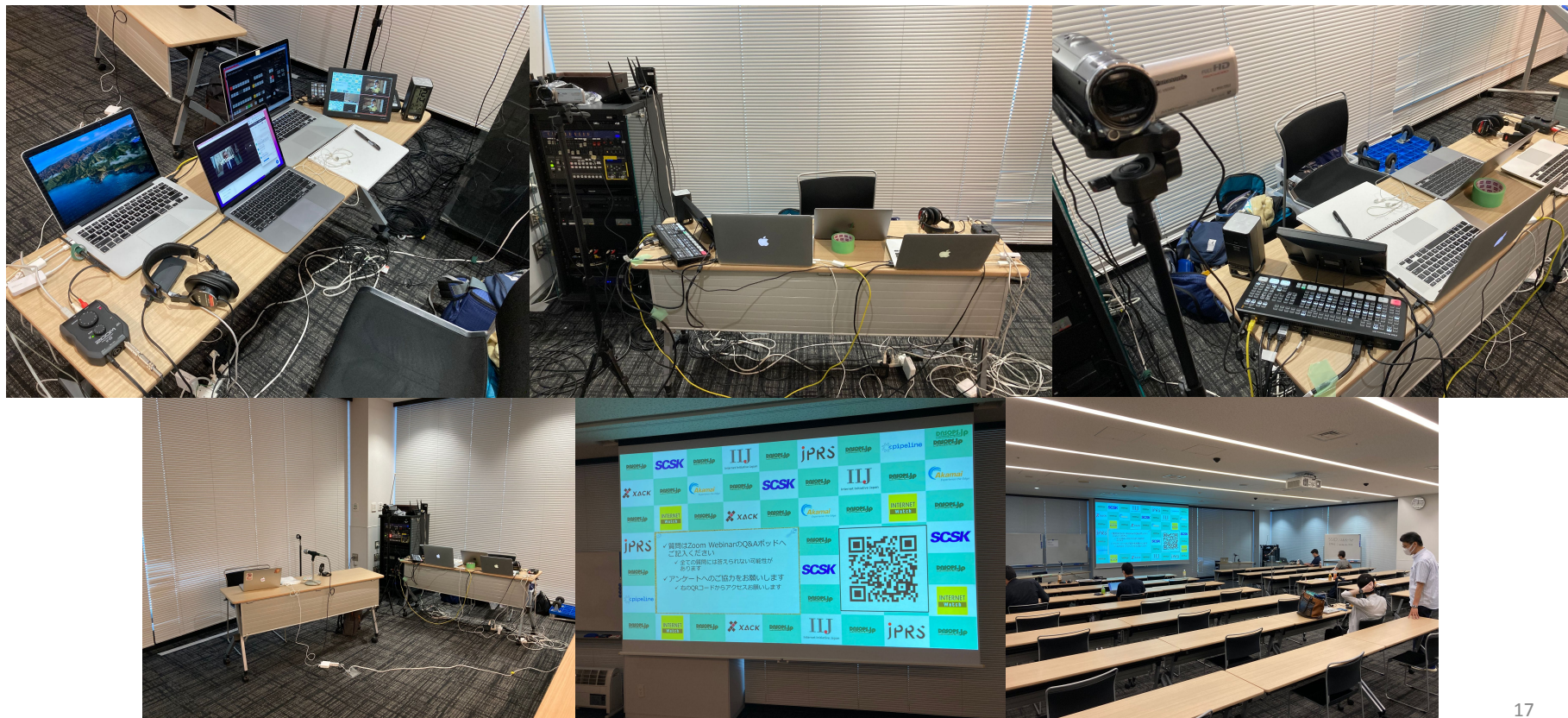
よかった点

- ・ Q&A(二つを併用)
 - Zoom WebinarのQ&Aポッド
 - 現地のマイク

司会者が順番と回しをうまく捌いたことでスムーズに進行できた(司会は島村さん@IIJ/DNSOPS.JP幹事)
- ・ 現地臨場感を伝える試み
 - 休憩中、広告動画を配信してない時間帯にQ&A用マイクをonにして場内音声を配信に乗せてみた(場内事前伝達の上)

オンライン参加者から良いとの感想があった

配信卓他



今後に向けて

- ・ 広告素材
 - 2021年と同様に提供形態はさまざま
 - 音声レベルの調整は慣れてきたが、オンサイト側での音量調整については課題が残ったため、現地とオンラインで素材を別にしたほうが良いかも
- ・ ハイブリッド開催
 - 昨今の情勢を考えると、今後もこの形態での実施は続くかな
 - オンサイトがメインになってもオンラインがなくなる事はないだろう
 - ・ 機材／ツールについては改善にむけて検討と準備を行う

雑感

オンサイトでの開催が久しぶりだったため、運営にとまどいはあったが、結構スムーズに運営できた

話者や質問者の表情等、オンサイトの熱量みたいなものをオンラインへ伝えるための仕組みを改善したい

(場内マイクはよかった)

オンラインの「参加している感」をどうやって醸成し、オンサイトへ伝えていくかの検討も必要

コミュニティの活動場所としてのイベントを維持するために引き続き考えていく

final word

たのしかった！次もやるぞ！
(1年ぶり3度目)